

令和4年度
事業報告書

- (1) 学校目標
- (2) 教学改革計画
- (3) 学生募集対策
- (4) 外部資金獲得
- (5) 人事政策
- (6) 経費抑制計画
- (7) 施設設備整備計画
- (8) その他

専門学校武蔵野ファッションカレッジ

(1) 学校目標

①学校スローガン

その先の未来を創る

— 心から楽しもう 全てやりきろう —

声を大にして自慢できる専門学校武蔵野ファッションカレッジらしさを確立する。
武蔵野らしさとは…

- ・お互い協力しあいながら、生き生き仕事ができる学校 の中で
- ・常に新しいことにチャレンジし、自らが成長し続ける教員がいて
- ・「好き」を現実なものにでき、学校に対する満足度の高い学生 がいる事である。

学校目標に対し、教員が同じ気持ちを持ち努力をし続けることができ、新たなことに共に協力し合え、声を大にして自慢できる武蔵野らしさの1歩が踏み出せた。

②目標達成のための優先課題と活動概要

a. 教学改革計画

様々な取り組みを行い学校の強みとする項目を目に見えるものにすることができた。

b. 学生募集対策

広報部と教員が協力し、募集活動に対しより力を入れて積極的な取り組みを行った。

c. 人事政策

居心地の良い学校、職場となる組織としての基盤を構築することができた。

d. 経費削減計画

教材費等を見直し経費抑制を行えた。更に教員の協力によりかなりの費用軽減を行うことができた。

(2) 教学改革

①中期計画に基づく実施計画

学校の強みとする項目を具体的に目に見えるものにするのが重要である。

a. 教員と学生の距離の近い親切的な指導

教員が率先してコミュニケーションをとることを心掛けたことで、学生との会話が弾み、授業以外の趣味の話などをするなど学生一人一人の個性を知ることができた。担任以外の教員と自由にかかわりを持つことは、一人でも多くの大人が自分を見てくれている安心感につながり、学校への満足度向上につながったと思う。更には学生が教員の作業に興味を持ち、話しかけてくるようになり学習意欲の向上にも繋がることとなった。

2年間のコロナ禍で当たり前になっていた閉鎖的な環境を、少しずつ取り除き新入生歓迎会や体育祭などを開催したことで、学生同士の交流の場を作ることができた。

教員会議、カリキュラム会議、広報会議を定期開催したことで、教員全員が情報を共有し共に考え、意見を出し合えた。しかし全員で会議を行うため時間調整が難しかったのも事実である。会議スケジュールを立て、議事録に基づいた会議開催を目指したい。

会議の授業の提案により、アパレル業界で活躍するデザイナーやEC担当、アパレル企業を経て独立した経営者やオリジナルブランドのデザイナーを講師に招き、様々な現場を知る授業を行いファッション業界で働く意識強化を図ることができた。ファッション業界の奥深さを知ること、未来の自分像を想像できる機会となった。

b. 特色としている授業の強化

期間限定ショップに関して、担当教員の数を増やし大きく見直しを図る。全校生徒に対してのショップ運営プレゼンテーションや、DMを制作し企業や関係各所、高校生にご案内を送付した結果、来店者が増加し売り上げも前年の倍となった。

コレクションや総合学園祭を、教員を中心とした全クラス対象の委員会活動として運営した。教員と学生が共に進める委員会活動がコミュニケーションのツールとなり、お互いが話しかけることのできる雰囲気を作り上げることができた。結果、皆が共通の目的に向かい力を合わせ、学生1人1人が何かしらの達成感を味わえる実践教育が目に見えるようになった。

教員同士の話し合いの場を設け、積極的に意見交換を行うことで授業内容を改善し、充実を図ることもできた。

c. 技術の継承

本校としての教授法をどのように進めるべきか、検討を始めた。

d. 卒業生とのつながり

卒業生に学校の情報を定期的に発信するツールを新たに始めた。

同窓会を開催しアパレル業界で働く卒業生の輪を広げる努力をし続ける。

②カリキュラム改革等

現在のカリキュラム・授業内容を把握し、時代に即した実践教育が行えるよう、現場教員の意見を積極的に取り入れる環境を整える。

a. カリキュラム会議の開催

早急に改善が必要な授業を取り上げ、それに対する話し合いを重点的に行った。教員同士活発に意見交換をしたことで、授業の改善をすることができた。

b. 特色としている授業の強化

実践教育の場である3つの特色ある授業に、アパレル企業からそれぞれの授業にあった講師をお招きしたことが強化につながった。

③キャリア支援・就職支援

現状における企業の情報を把握し、就職指導の強化を図る。

a. 授業での就職指導強化

個別面談を設定し1人1人就職活動に向けての支援を行った。しかし、就職に対して学生の意識に温度差があり、結果に結びつけることが難しかった。次年度は更なる対策を考慮したい。

b. 就職支援体制の整備

就職担当教員を配置し企業との連携を図った。学内での企業説明会を開催した。コロナ禍のため難しいこともあり、次年度はさらに強化を図る。

c. 業界と連携した就職支援

企業開拓は難航しているが、小規模のアパレル企業とつながりを持ち、新たなインターンシップ先を持つことができた。

d. 卒業生との連携

アパレル業界で活躍するデザイナーやEC担当、アパレル企業を経て独立した経営者やオリジナルブランドのデザイナーを講師に招き、様々な現場を知る授業を行いファッション業界で働く意識強化を図った。ファッション業界の奥深さを知ることで、未来の自分像を想像できる機会となった。

更に、今年度新たに接客の授業内で現役販売員の卒業生たちを招き、接客実践試験を行った。試験後、自らロールプレイングを行うなど積極的な指導により、学生の販売員への就職意識が高まる結果となった。

④学生支援・中途退学対策

1人1人との距離感を大切にしながら、教員と学生の距離の近い親切的な指導を行う。

a. 授業アンケートの有効活用

授業アンケートの結果を担当教員が分析し、教員自身の振り返りを行った。

b. 組織的対応力を強化し中途退学者の抑制

クラス担任の学生対応を強化した。担任と保護者が連絡を取り合い、連携して学生対応を行うと共に、担任以外の教員も協力する体制を整えた。

c. 学費未納学生への支援

教員による、奨学金や授業料無償化制度で得た学費の適切な利用指導を強化した。

アルバイトと学びの両立など積極的に学生相談を行った。

(3) 学生募集対策

①中期計画に基づく実施計画

入学者増加を目指し、広報活動を積極的に行っていくことが重要である。

a. SNS、YouTubeなどを駆使したプロモーション、教育の視覚化

若手教員がInstagram担当となり、日常の学校生活や授業の様子を発信した。広報と協力し体験入学の様子やイベントの様子も投稿することができ、フォロワー増加につながった。

b. ファッション館再構築

2022年度新学期に向け、外壁を一新したことでファッション館のイメージをかなりアップすることができた。

倉庫として使用していた空き教室の整理を行った。学生が使用できるスペース拡大につながった。

②体験入学・学校説明会等

学校ガイダンス、模擬授業への積極的参加と体験入学や説明会の運営改善を行う。

a. 教員のガイダンス派遣強化

教員をガイダンスや見学会に派遣することができた。業務が多い中、高校へ教員を派遣するため、教員同士が助け合い協力する体制を整えたが、かなりタイトになってしまっていることは問題であると考え改善を目指す。

b. 高等学校との信頼関係構築

高校生に専門的な授業を行うことの良さを高校の先生方に、伝える取り組みを行った。

c. 体験入学の運営改善

体験入学運営を再構築することができている。アパレルの接客意識を取り込み、チームで考えぬく力、学生と協力しあう体制を整えることができた。

d. タイムスケジュール・企画内容の見直し

体験入学のスケジュールや企画内容、導線の改善を行った。スムーズな運営ができている。

(4) 外部資金獲得

①中期計画に基づく実施計画

学内設備や教員の能力を生かした収益事業の促進。

a. 夏休み自由研究のワークショップ開催

今年度は学内ワークショップを開催し、ニーズや教員の労力、費用等の検討を行った。外部資金としての活動よりも、学園の学生や教職員などの交流を図ることができ、かなり有意義な結果に繋げることができた。

教学改革の内容として、継続することを検討する。

b. 後藤学園グッズ製作（学園全体）

プロジェクトチームの中でファッション校が包丁ケースのサンプル製作を行い、調理学校・栄養学校がそれぞれの学生にモニター調査を行った。

(5) 人事政策

①中期計画に基づく実施計画

居心地の良い学校、職場の確立を目指した。

適切な休暇を積極的に取ることで気持ちの改善を行った。

②組織編制・要員計画

教員同士が意見交換を頻繁に行い、お互いが協力し合う職場構築ができている。

③教職員研修・能力開発

新たに入職した教員や若手教員のスキルアップを着実にやっている。

(6) 経費削減計画

①中期計画に基づく実施計画

令和4年度予算を大幅に削減した。的確な分析をおこない更なる経費抑制計画を立てることを目標とした。

a. 紙媒体からデジタル化への強化

教員がDMや入学案内を製作し、かなりの費用軽減が行えた。

b. 教材費改善・見直し

学用品等適切な金額を徴収できるよう改善をした。そのため新たな仕組み構築の必要性はなくなった。

c. 行事運営費用の見直し

学生参加費の見直し、適切な予算配分を行った結果、支出を抑えることができた。

d. 保守点検費用の削減

メンテナンス等を教員が行い費用削減に努めた。

(7) 施設設備整備計画

①中期計画に基づく実施計画

校舎を中心とした安心安全な環境整備を目指した。

②その他の取り組み

a. 校舎老朽化による破損個所の修理

必要に応じて随時補修を行った。

b. 教室内修繕

新たな空調機設置、PC入れ替え、各階に新規モニター設置などを行った。順次環境整備に努めている。

c. 椅子・机のリニューアル

新たな作業台購入など、順次環境整備に努めている。

(8) その他

a. ハラスメント防止

学生に対しては、複数の教員がかかわるようにし対応できる体制を整えた。
教員とはコミュニケーションを密にし、声を聴く場を設けている。